

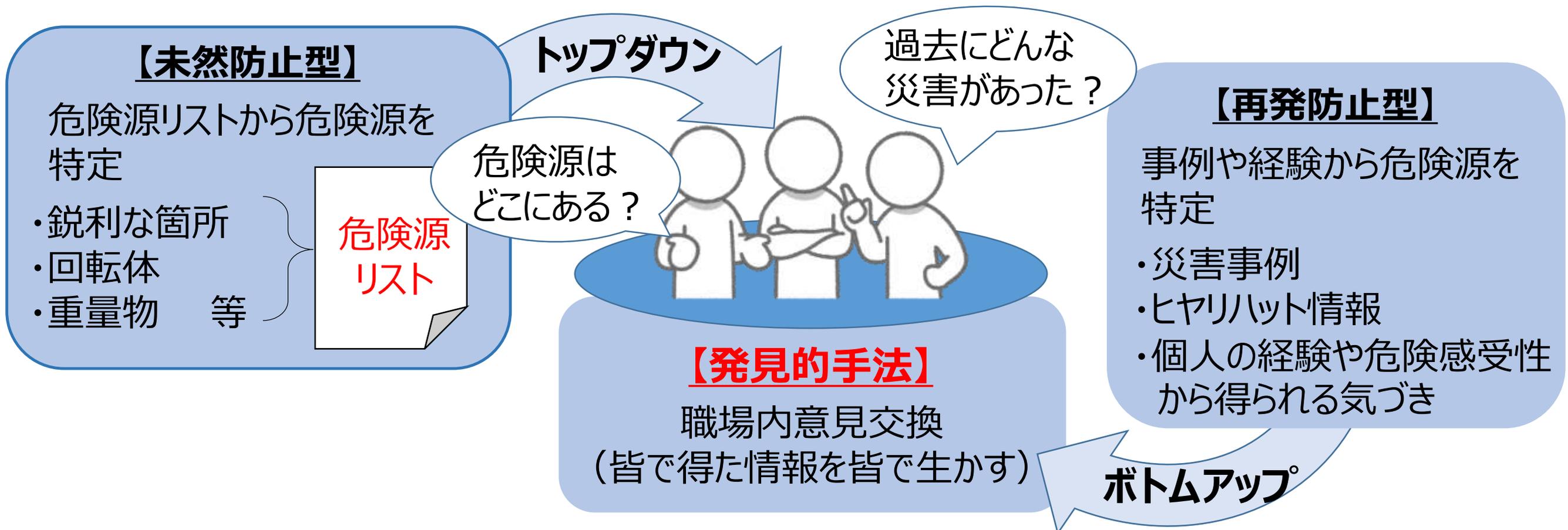
進捗状況及び今後の運営について

1. これまでとこれからのサブWGの活動内容について

リスクアセスメントの危険源の特定において、各業種からの事例をもとに、共通手法を探る。

昨年度までのWGにおいて、網羅的なリスクアセスメント実施には職場での意見交換による「発見的手法」が有効であり、そのためには「わかりやすい危険源リスト」の用意と、「職場で意見交換を行うためのコミュニケーションツール」の2つが大切であるとの意見にまとめ、まずは各社における「コミュニケーションツール」の紹介を行った。

今年度は昨年度に引き続き「わかりやすい危険源リスト」の作成・提案を進める。



2. 今後の活動 「危険源」をもっとイメージしやすく（危険源リスト作成）

各社事例をもとに、設備や工具・作業等に、どういった危険源が潜んでいるのか判断しやすいツール（危険源一覧）を作成する。

【活動内容】 具体的な設備等に対する危険源一覧作成

- ① JISにある「危険源の型」を、わかりやすくイメージしやすいワードに変換。 ⇒作成済
- ② 変換した「危険源の型」から、関係する設備や工具・作業等の具体的な名称を各団体を通じて情報収集。 ⇒6月中旬開始予定
- ③ 具体的な設備や工具等の名称を左列に整理し、それぞれに対応する危険源リストを作成。 ⇒9月見込み

【作成リストイメージ】

②

①	危険源の型	具体例		
		機械・設備	工具、原材料、製品、副産物	作業、環境
	機械・器具等に係る危険源			
	回転している箇所			
	伸縮・上下運動する箇所（隙間が狭くなる箇所）			
	内部に高圧がかかっている箇所			
	鋭利な箇所			

記入（追加）

逆引きに組みなおす。

③

50音	機械・設備	危険源の型	
か	攪拌機 整理	回転している箇所	
ぐ	グラインダー	回転している箇所	
し	シリンダー	伸縮・上下運動する箇所（隙間が狭くなる箇所）	
せ	旋盤	回転している箇所	鋭利な箇所

ひとつの設備や工具等に対し、複数の危険源がある場合も考慮。漏れの低減につなげる。